

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	407910047		
法人名	有限会社 弘洋		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	〒835-0136 福岡県みやま市高田町海津1461-2 (電話) 0944-62-6151		
自己評価作成日	平成 27 年 5 月 28 日	評価結果確定日	平成 27 年 8 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な共同生活の中で能力に応じ充実した日常生活が営めるように、温熱療法や機能訓練を行い、認知症の進行を予防しいやしの空間づくりをモットーにあたたかい支援を心がけています。
本人と家族が希望すれば生活の延長として看取りまで支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 27 年 6 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周囲は田園があり、住宅も隣接している。施設内では音楽を流し、できるだけ利用者と職員が共に過ごす時間を大切にしている。有資格者がマンツーマンで行う温熱療法、フィンガー体操を隔日で実施し、認知症進行の予防を目指している。夕方の時間も不安にならないように夕食前には歌を唄う時間をもち、夕食後に下肢を温める岩盤浴を行うなど配慮をしている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝の申し送り後に職員一同で合唱一日を初心に戻り始めている。日々変化する利用者の状態を把握し異常時は主治医と連携し安楽・安心して生活できるように支援している。 初心を忘れない・安定した日常生活の営み癒しの空間づくり・地域との関わり・笑顔	管理者、職員は理念を共有し毎朝、朝礼後に理念を復唱して初心に戻り1日をスタートさせている。笑顔を引き出すキーワードを見つけ、声掛けの仕方を工夫し、安心して生活できるように対応をしている。 地域との繋がりがより持てるように行事等の声掛けを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生き生きサロンへの参加により顔なじみとなり、やさしく声かけ挨拶していただくようになった。地区の隣組へ加入し回覧板、地域の仕事、草取り等参加し、事業所の人員の余裕のない時は不参加金を支払いお願いしている。	地域の隣組に加入して草取り、缶拾い等の地域活動に参加をしている。利用者がいきいきサロンへ参加した時に事業所便りを持って行き、施設のことを知ってもらうようにしている。小・中学校の職場体験を受け入れたり、地域の人たちがお花、お菓子を持って立ち寄るなど交流を持っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでしている青空体操や認知症についての話しなど地域の方へ生き生きサロンで行えるよう準備している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、行事報告やヒヤリハット対策、研修内容等を示し、意見や質問をいただいている。またその報告書（会議録）を作成し、他の職員へ周知徹底したり、家族へ送付したりしている。	2か月に1回運営推進会議を開催している。行事報告、研修内容、評価への取り組みの報告を行い、サービスの実際や介助方法、看取りの報告を行っている。 会議内容を職員・利用者家族へ報告を行い、サービスの向上に役立てている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とはメールや電話にて相談、指導をしていただいている。特に地域密着型の事業所としての近隣との関係や事業所の姿勢を示す事ができ、今後はさらに地域への積極的なアプローチが必要と思われる。	日頃より市の担当者と密接に連絡をとり、事業所の実情を報告し、相談が行える顔の見える関係を作っている。 グループホーム協議会へ参加をして、情報交換を行うなど連携をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	動きやすい位置、見守りできる場所に居室のベッドやポータブルトイレの配置換えを行い、リスクはあるがある程度本人の自由に動けるようにして見守りをしている。家族へもリスクと身体拘束の説明をしている。	玄関にはチャイム・センサー等はなく、日中は居室玄関ともに施錠はしていない。職員は利用者の状況を見て外出傾向を把握し、付き添い等を行っている。身体拘束に関するマニュアルがあり、外部や内部研修を行い、職員全員が参加してケアに取り組んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、施設内外の研修に参加し、日々話しあいをしている。職員の口調の強い時は気づいた他の職員が声かけしたり、介助をするときの声かけの仕方に注意したりしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での研修を実施している。利用者に子供がおらず、甥より相談を受けた際は制度についてや後見人の利用について説明し、紹介した。	制度に関しては、利用開始時、契約時に利用者家族へ説明をしている。必要に応じて利用者家族へ説明を行い助言をしている。職員は内部・外部研修に参加をして学ぶ機会がありパンフレット、研修報告を作成している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険の報酬改定や料金変更、加算の内容、主治医変更を書面にて説明した。ご家族には来所された時に説明したり、電話したりして同意をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談、意見箱の設置、また市の相談窓口の電話番号を知らせている。	利用者が運営推進会議に参加している。食事や外出に関する具体的な希望があり、実際に運営に反映させている。家族の来園時には、話をする機会を作り、敬老の日に合わせて家族会を行い、家族だけで話をする時間をもうけ、家族会代表より意見をいただいている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個々の時間で日常的に職員に声をかけ、積極的に意見を聞くようにしている。行事後の反省会や毎日の申し送り等で職員同士の意見交換をし、利用者のよりよい生活に生かしている。	全職員で自己評価、苦情対応への取り組みをしている。管理者は日常業務の中で職員が気軽に相談をしやすい関係を作り、職員の気づき等を業務に生かしている。職員が働きやすいように産休育休体制を充実させ職員個々の事情を勘案し、勤務シフトの調整を行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家族構成など職員の情報を把握し、希望に沿った勤務ができるよう調整している。資格取得者には手当を加算し、研修希望者には研修参加できるよう配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用に関する条件の取り決めはなく、本人の意欲を大切にしている。	採用選考については、性別年齢等の条件はなく差別なく安心して働ける環境を目指している。仕事をしながら資格を取ることを勧めており、実際、介護福祉士の資格取得をした職員が数名いるなど本人の仕事への意欲を大切にしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内外研修を受講し、その内容を職員で情報共有している。	全職員は内部・外部研修に参加をして、研修内容を共有している。人権に関するパンフレット、研修報告を作成し、職員に対する人権教育に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には新人研修計画に沿って、職員皆で見守り介護できるよう指導している。 職員には常時研修募集や案内を示し、参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高田町グループホーム協議会やみやま市地域密着型事業者連絡協議会の参加、意見交換、研修をしている。 高齢者グループホーム協議会での研修等の参加、みやま・柳川事業者連絡協議会の研修へ参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決まった使用者はてんかん発作のある方であった。てんかんについて看護師による勉強会の実施、緊急時の対応や発作時の搬送についての確認、職員間での情報共有を深め、安心して生活していただけるよう家族にも伝えた。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は、家族及び利用者は不安や心配もあるため、入所してからの生活を見てもらった。安心して過ごしている様子や職員とのコミュニケーションを通して、不安を軽減できるよう配慮した。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入所問い合わせの電話対応した時点で、緊急 を要する入所か、何が困っているのか、みや ま市の住民か、認知症があるか、共同生活が 可能かを尋ねる。ホームが満床の際は他のグ ループホームをすすめたり、関連事業所の受 け入れ等も確認している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	利用者へ洗濯干し、洗濯たたみ、茶碗拭きな どお願いするのではなく、職員がしているの を見て「たたまやんとやろう。」「拭くとか ね。」と本人よりの声や意欲を大切にしてい る。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	毎月の支払いはホームへ持参していただき、 面会も兼ねて近況や日々の様子を伝え、ケア プランの意向をうかがったり、家族の近況等 も聞くようにしている。遠方の家族へも青空 だよりの送付と近況の連絡をしており、家族 からも返事をいただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	普段の生活で利用者へ外出希望などを聞き利 用者の希望が実現できるよう、家族へ伝える ようにしている。	日常の中で利用者のなじみの場や人について 把握をし、友人に訪問してもらうなど繋がり が継続できるように支援をしている。 家族からも電話、来園時に話した内容の逐語 録を作成して職員間での情報の共有を行い、 支援へ結び付けている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席や食事の配置、職員の配置等、日々の利用 者の状態、利用者同士の交流を見て変更す ることもある。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	体調不良にて緊急搬送し入院後老健へ入所さ れた利用者の面会に行っている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どんな暮らしを望まれるか、毎日の会議や申し送り時、利用者一人一人について話しあっている。ケアプラン作成の際も職員に本人の意思やニーズを書き出してもらう。また本人の生活や性格を考えて寄り添うことで見えてくる。	日常生活の関わりの中で、思いや希望、移行等の把握に努め、表情や行動から利用者の意向を推し測っている。特に散髪や入浴の時に、利用者から出る何気ない意向、本音も報告を受けて一人一人の思いに寄り添っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入所情報を見て、生活歴やこれまでの暮らしを把握し、日々の支援の中で気づいていない時は伝えるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者の生活状態は変化しているが、まず声をかけ、「起きますか」「これはどうしますか」と自己決定や本人の意欲を引き出し、あくまでできない部分の手助けをするよう実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎回の面会時に生活の様子を伝え、家族の意向や意見をうかがう。また、職員からの気づきにてケアプラン作成につなげている。	利用者一人ひとりのモニタリングを担当者が行い、また職員の気づき等を提出して毎月の職員会議で話し合い、その意向を反映しながら、本人や家族の要望を踏まえて介護計画を作成している。利用者の状態変化や状況に応じて随時見直しを行い、計画を見直した際は、家族へ報告し了承してもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングは毎月担当者が行い、3カ月毎にケアマネージャーが評価をしている。また、毎日の支援経過そのものがケアプランニーズに対しての記録となっているため、毎日の記録の中から情報や気づきが得られる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ある程度の1日の流れはあるが、天気が良く花見の頃には、お弁当を作って外で食べたり、必要時は職員の勤務を半日にしたり、体調により入浴の日数が変わったり、通院介助で車いす用の車を使用したりして対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんには運営推進会議の出席、生き生きサロンへの参加の口添えやホームの玄関の花植えのお世話していただいている。また、高田中学校より職場体験、竹海小学校との交流で利用者の喜ぶ様子がみられた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携のできる主治医のもと往診にて、利用者は安心してホームでの生活をされ、看取りまで希望されるところは家族の意向に沿うように支援している。	本人希望のかかりつけ医による受診を支援している。受診は基本的には家族同伴だが、柔軟に対応し職員の付き添いを行っている。通院介助の方法や情報の伝達については、家族と話し合い、情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師と常に連携しながらホームでの生活上での状態の変化を伝えている。特に専門医での受診が必要な時は紹介状を書いていただき家族とともに受診している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、病院への生活情報の提供等を行っている。治療状況を確認し、退院の際の対応をできるように準備している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時に看取りについての方針と現在の意向をうかがい記入していただく。毎年家族会後に看取りについての同意書の確認を行っている。	重度化や看取り支援に関する事業所の意向確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて、利用開始時に家族等へ説明を行い、同意書をもっている。また家族会の開催ごとに医療機関での延命治療について等の同意書の再確認を行っている。利用者や家族等の意向を大切にしながら状況変化に応じて、そのつど話し合いを行い、利用者・家族・医療関係者、職員で連携を図り、支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間と昼間の対応の仕方、家族・スタッフへの連絡方法、連絡先の確認を行い訓練している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、通報訓練、消防立入検査、消火器点検を行い、実践できるようにしている。みやま市内の、不審火について民生委員さんより避難時の協力の申し出ある。	避難訓練を実施している。運営推進会議のメンバーに消防士がおり協力されている。地域の協力体制については、運営推進会議やいきいきサロンで口頭、チラシで呼びかけて協力体制の構築に取り組んでいる。非常用の飲食料は台所に、備品は事業所内に準備している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の利用目的や方針について研修し情報共有している。また玄関先に掲示している。	職員は、利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応を心掛けている。内部研修の開催や、理念を唱和し、職員の意識向上や守秘義務の徹底を図っている。日々の関わりの中で気づきがあれば管理者や職員間で注意し合い、利用者を人生の先輩として尊重し、声かけや対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の意思で、家事への参加や日常生活ができるよう声かけの工夫や、周囲の環境整備を行っている。顔の表情や変化にて気持ちをくんだり、どちらが良いですかと選んで頂いている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間、食事量、食事のペースと個人差があり、それぞれに対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は着る服を決めていただき、身だしなみも鏡の前でクシを使用し自分で整えられている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、職員が手作りで料理を作り、職員も同じものを食べている。おやつは何を食べたいかその日の要望に応じて決定し作ることもある。外食やお弁当を持って花見等行うこともある。	調理担当の職員は、旬の新鮮な食材で利用者の嗜好や栄養バランスにも配慮した献立を心掛け、四季折々の行事食やお祝い膳を用意し、利用者が楽しく食事ができるように取り組んでいる。また利用者と職員と一緒に同じテーブルを囲み、家庭的な雰囲気である。利用者は味見、つぎ分け、片付け等を行っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に2回体重測定をし、利用者の毎日の飲料も計算している。食事摂取量も記入し把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声かけし行っている。声かけに応じられない際は無理に行わずうがいなどで対応する。寝る前は入れ歯洗浄のため義歯を預かる。義歯が合わない時や歯茎の腫れがあるときは家族の同意を得て往診にて義歯調整をしてもらう。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の人も2～3時間ごとにトイレ誘導する。誘導時タイミングよく排泄あることも多いため実践している。	排泄チェック表を作成し、利用者に合わせて前誘導を心掛け、トイレで気持ち良く排泄できるように支援している。下着は、布・紙パンツ・パット類は日中、夜間などその時々状態に合わせて使用している。職員は他の利用者に気付かれないように利用者に寄り添い、介助や排せつ後の確認を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後すぐ手づくりヨーグルト・牛乳を飲んだり、食物繊維の多い食材の提供をしたりしている。体操・散歩にて効果ない時は、状態に応じて下剤使用する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	体調に合わせて入浴される。週2～3回。本人の望む時間の設定はできていないが、「一番風呂よ」「お風呂上がり爪切りしますね」と声かけし、気持ちよく過ごせる工夫をしている。本人の意思・体調に応じて入浴を中止することもある。	入浴支援は週2～3回の設定であるが、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者の生活歴をひも解くなどキーワードを把握し、職員間の連携プレイでの声掛けのタイミングを試みている。無理強いせず足浴を行い、かけ流しの湯で気持ちが良いと感じてもらい、入浴を楽しめるように取り組んでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の楽寝は30分～1時間くらいの短時間にしていただく。長時間座位で過ごしている方には、休息のため横になってもらうよう声かけし居室へ誘導する。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各自の内服薬をセッティングして持参してもらう。薬の使用時の注意点や副作用について説明を受け記録に残し、職員へ伝達している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、体操、散歩、岩盤浴等個々の性格や意欲に合わせ、声かけの工夫をし気分良く取り組めるよう支援している。また、手伝っていたいた後は必ずねぎらいの言葉をかける。実際としては、ビール好きの方にはノンアルコールビールを、コーヒー好きの方にはコーヒーを甘めにしたりして提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、家族の外出等は、天気や体調に合わせて行い、気分転換として玄関先で日光浴するなど30分でも外気に触れるようにしている。	事業所前の道は、利用者のほどよい散歩コースでお地蔵・水天宮参りや近所の庭の紫陽花を見に出かけている。8名の職員で利用者全員を温泉へ外出支援を行った。一緒に温泉に入り、食事を楽しんできた。四季の花見やさげもん、お雛様廻り、かんぼの宿等の外出は恒例で毎回楽しみにされている。家族の協力で買い物・食事に外出されている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人の意向のもと、財布を持っている方もいる。家族との外出時や自宅に帰られた時に使用されている。財布を持っていない方は、外出先での買い物や必要なものはホームで立替えし家族へ支払っていただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書ける方は、手紙を書いていただき、家族からの手紙・年賀状が届くと喜ばれている。本人の希望時は家族へ連絡し、持ってきてほしいものを家族に伝えている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者とともに作った作品の掲示、見やすい日めくりカレンダー、利用者の状態に合わせた椅子の配置、足おきの使用、手すり設置、トイレの表示をしている。	リビングの天井は青空をイメージしている。立体折り紙や張り絵などで趣向を添え、季節感を醸しだし、テーブルに花を飾り、居心地良く過ごせるように配慮している。利用者の動線に合わせた家具やイスの配置を心掛け、家庭的で落ち着いた雰囲気となじみの場を提供し、安心していただけるように努めている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファ、事務所前のテーブル、玄関先の椅子・ベンチとくつろげる場所がある。また、折りたたみテーブルを利用し個々のスペースを作り、食事・お茶・洗濯たみをされることがある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用していた家具や思い出の物などは持ってきてもらっている。タンスの衣類は家族と話し入れ替えている。日中の居室のポータブルトイレは布をかける配慮をし、バケツは日光消毒、ハイター使用にて消臭に努めるなど環境整備も行っている。	居室に利用者の表札が飾られ、室内は使いなれた物、家具、時計、カレンダー、写真、筆記用具、思い出の小物等を飾り馴染みの物で設え、安心して過ごしていただけるように配慮している。また寝具や季節の衣服の衣替えは家族の協力があり一緒に行っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体可動性を見てタンスの位置、ベッド柵、ポータブルトイレの位置を決めている。ベッド柵は立ち上がりや起き上がり時必要な方は設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない